神戸新聞 2014年03月04日 火曜日 面名 朝一社 １４ 29ページ

割れる表記 意味は同じ

津波啓発 自治体も腐心

海抜

南海トラフ巨大地震などに備え、全国各地で、その土地の高さを示す表示板の設置が進んでいる。だが、その表記は自治体によって「海抜」「標高」とバラバラ。東日本大震災の被害を繰り返さぬよう取り組まれているが、なぜ、こうした違いが生まれているのだろうか。

兵庫県が2月に発表した独自想定で、南海トラフ地震では最大2メートル浸水するとされた神戸ハーバーランド周辺。「ここの地盤は海抜2・7メートル」の表示板がある。

神戸市は3月末までに避難所や道路など計336カ所に表示板を取り付ける。海抜を選んだ理由を、市は「海、すなわち津波を想像しやすい」とした。加古川市や豊岡市なども同様の表記だ。

一方、姫路市は標高。担当者は「海抜は低い土地のイメージが強く、高い場所でもなじみがある標高にした」と話す。明石市も「標高」の表示板を168カ所に設置。東日本大震災を受け、兵庫県が津波高を2倍にして発表した時の表現に沿ったというが、県は表示336カ所に表示板を取り付ける。海抜を選んだ理由を、市は「海、すなわち津波を想像しやすい」とした。加古川市や豊岡市なども同様の表記だ。

一方、姫路市は標高。担当者は「海抜は低い高」の表示板を168カ所に設置。東日本大震災を受け、兵庫県が津波高を2倍にして発表した時の表現に沿ったというが、県は表示336カ所に表示板を取り付ける。海抜を選んだ理由を、市は「海、すなわち津波を想像しやすい」とした。加古川市や豊岡市なども同様の表記だ。

（上田勇紀）

標高

専門家「土地の高さ知り警戒を」

危機感伝わりやすい

高台住民にもなじみ

国はどうか。2012年度から設置が始まった国土交通省の表示板は「海抜」だ。「標高より海を想像しやすい」と判断した。04年度から町内86カ所に標高を表示していた兵庫県播磨町は今年1月から、上から「海抜」のシールを張り直している。町は「議会から異論が出てきた。混在はよくないと思い、国の基準に合わせた」とする。

国土地理院によると、いずれも土地の高さを示すが、海抜はその土地の近くにある海からの高さ、標高は東京湾の平均潮位からの高さ―と違いがある。しかし、一般的には同じ意味で使われ、実際の高さも多くの場合同じという。

神戸大の室崎益輝名誉教授（防災計画学）は「いずれの表記でも、日ごろから土地の高さを知ることで津波への警戒心を養える」と指摘。「ただし、最悪の想定で津波がどこまで来るかを知らなければ意味がない。セットで浸透させる必要がある」と話す。

明石市の「標高」表示板＝明石市相生町（撮影・森本尚樹）

神戸市の「海抜」表示板＝神戸市中央区東川崎町（撮影・宮路博志）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

【名前　　】

①「海抜」と「標高」の意味や違いを文中からさがして書きましょう。

海抜（　　）

標高（　　）

②津波を啓発するための表記が、自治体によってバラバラなのはなぜですか。また、どんな問題が生じるでしょうか。

③記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

学びポイント！

◆あなたがふだん過ごす場所に、このような津波注意の看板はありませんか？探してみましょう。

◆津波注意の看板がない場合、その場所は津波の危険がないのでしょうか？調べてみましょう。

NIEワークシート／小学高学年～高校／社会、国語、朝NIE